



躍動する兵庫、新時代への挑戦

兵庫県知事 齋藤元彦



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が広がりを見せてから3年が経過しました。これまでの経験と教訓を活かしながら、感染防止対策と社会経済活動を両立させるウィズコロナの時代に入ったと言えるでしょう。一方、混迷するウクライナ情勢等を背景にした物価高騰や円安が、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

こうした変化の大きな時代だからこそ、受身になることなく、新たな挑戦を起こすことが大切ではないでしょうか。令和5年は「躍動する兵庫」の実現に向け、果敢にチャレンジする年にしたいと思っています。

その一つは、新たな産業活力の創出です。中小企業やスタートアップが持っている既存の技術と地域課題とのマッチングを広げ、新たなイノベーションを生み出します。また、水素エネルギーの利活用や中小企業のCO₂排出量削減の支援強化など、脱炭素社会に向けた取組を加速させます。ドローンや空飛ぶクルマなどの次世代モビリティの社会実装にも挑みます。

また、兵庫が関西と瀬戸内の結節点にあるという好立地を活かし、両エリアをつなぐ大交流圏の形成をめざします。大阪・関西万博が開催される2025年には、瀬戸内国際芸術祭も開催される予定です。県内各地をパビリオンに見立てて誘客する「フィールドパビリオン」を核に、関西圏域とは万博に関連した連携事業を、瀬戸内圏域とは芸術・文化等をテーマにした連携事業を行えるよう、着実に準備を進めていきます。

若者の学びの場も充実させます。県立高校等において、魅力・特色あるカリキュラムの充実やICT化を進めることに加え、生徒ファーストの視点で、老朽化が進む学校の施設・設備や部活動の用具・備品等を改善します。中高生からのアントレプレナーシップ(起業家精神)教育も推進し、課題解決に主体的に取り組む力を伸ばします。

県政の推進にあたって、今年ももっとも大切にする姿勢は、現場主義の徹底と対話の重視です。私自身、引き続き積極的に県内各地域に足を運び、医療や交通、観光、教育など様々な課題について県民の皆さまと対話をし、施策につなげていきます。

皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

私たちは、「非戦」を貫き、今こそ「慈悲」をと世界中に訴えます。微力ではありますが、ご指導をよろしく願います。ウクライナ国首都キーウ(キエフ)から連日連夜、メール、テレグラム、メッセンジャーなどを通じて、神戸国際支縁機構に厳しい戦時下の状況が伝わっています。孤児、夫をなくした独身女性、高齢の独居者、寄留者のために仕えていきたいと願っています。

ロシア領域メリトポリなどに空爆。双方がいがみあっています。神戸国際支縁機構は、「停戦」について、両国をはじめ、世界に呼びかけます。

三木晴雄

玉の肌石鹸株式会社会長

2001年の9・11テロ以降、神戸国際支縁機構は立ち上がりました。空爆による孤児の悲しみに共振したからです。1999年に東京で三木晴雄氏と出会いました。日本で一番知名度が高い石鹸会社

の経営者でした。一方、私は阪神・淡路大震災の焦土から始まった駆け出しの牧師にすぎませんでした。住む世界がまったく違います。日本聖書協会主催の東京大聖書展の準備で上京した際、三木氏の経営哲学に魅せられました。日本の販売シェアを8パーセント以上に増やさないという慎重な経済人です。成功者と信者もわずかな小さな教会の聖職者では対照的でした。「岩村さんは、くれぐれ坊主と異なり、お金に窮していても無心しないところが、いじらしい」と応援してくださる関係が四半世紀になろうとしています。いわば神戸国際支縁機構の恩人です。伴走した故岩村カヨ子、故菅原洗人、画伯などだけでなく、神戸バイブル・ハウス「KBH」再建、バザー、被災地支縁の功労者です。今年、神戸でウクライナ出身の歌手のコンサートが実現できるように祈っております。



三木晴雄氏と岩村義雄理事長

(玉の肌石鹸株式会社 会長室 2022年3月8日)



ヤマザキ

**世界のパン
ヤマザキ**



Otsuka

株式会社 大塚製薬工場

〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151(代表)

MIYOSHI

ミヨシ石鹸株式会社

〒130-0021

東京都墨田区緑3-8-12

TEL 03-3634-1341



想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

第34次球磨川ボランティア

2023年1月8日

代表 村上裕隆

おいしい無農薬、有機のコメづくりの基本は冬水田んぼである。神戸から通う回数は月に一回である。田んぼのプランクトン、イトミミズ、ドジョウなど、乾田では見られなくなった生物がここには生きている。雑草が育ちにくく、生物が農薬の代わりに稲を生育して助けてくれる。16年間、日本一の清流の川辺川の水を管理して下さる熊本県相良村の丸目寧さん方たちの協力に感謝している。

2023年、水害のためドロ出しなどで親しくなった独居の高齢者たちに新年のあいさつ。大事な家族だから。

福岡県朝倉市杷木町で唯一押し流された宗教施設「文字社」の拝殿、社殿はまだ復旧していない。神社全体を襲った激流を必死に生き延びた梶原征子さん(84歳)は語る。「停電、携帯も使えない真つ暗闇の中、一晩中、稲光がたよりだった。火事場の力で障がい者の家族を布団ごと抱きかかえて、襲う水圧に抗いながら生き延びた」と。

一晩中、砂防ダムの破れで川の中で孤立した梶原ミドリさん(83歳)はトタンを頭に載せて、石が転がってくるのを防いだ。六角川の氾濫で2回、家がドロに襲われ、畳の部屋はもうない大町町の今村佳代子さん(84歳)。紹介させていただくのはほんの一部だけである。みなさんの笑顔が神戸の私たちをいやしてくださる。

日吉新聞 2022年(令和4年)12月15日

日吉新聞 2022年(令和4年)11月12日

子どもたちにお米と笑顔をお届けする

12/6



復興米を手渡される園児たち

神戸国際支線機構の岩村義雄理事長から、なつめ保育園に「復興米」が贈られました。去年に引き続き2年目の活動となり、園児たちが10月に収穫、11月に足踏み式の脱穀機を使い脱穀し、精米した復興米150グラムが園児73名に配られました。緒方真喜代園長は「子どもたちは、田んぼでの米作りを見たり体験する機会がほとんどなかった。子どもたちにとって良い経験になりました」と話し、園児たちから「お米ができるまでの作業は楽しかったです。ありがとうございました」とお礼の言葉が贈られました。

『広報さがら』(2023年2月号 杉田大地8頁)

育てた「復興米」食べて

神戸国際支線機構のなつめ保育園に贈呈された復興米が、園児たちによって食べられました。園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。

なつめ保育園の園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。

『人吉新聞』(2022年12月15日付)。「復興米」提供

足踏み式「復興米」脱穀

なつめ保育園の園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。

なつめ保育園の園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。

『人吉新聞』(2022年11月12日付)。脱穀

杜鹿新聞

令和4年10月28日

園児が脱穀作業を体験



石巻市さくら町の字「校法」渡邊幼稚園長幼

杜鹿新聞(2022年10月28日付)

園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。園児たちは、復興米の味を味わい、復興米の大切さを学びました。

『杜鹿新聞』(2022年10月28日付)

石巻日日新聞

2022年(令和4年)10月27日

足踏み機で脱穀体験



石巻市の私立長浜幼稚園が春に田植えした「ひとめぼれ」の収穫作業が行われた。年長児38人が田んぼに入り、昔ながらの手作業で稲穂を刈り取った。神戸国際支線機構が協力した(21日、石巻市渡邊)

待ちに待った収穫の秋

『石巻日日新聞』(2022年10月26日付)

2022年(令和4年)10月26日

足踏み機で脱穀体験



天日干した稲を脱穀した

待ちに待った収穫の秋

『石巻日日新聞』(2022年10月26日付)

31年ぶり、ゼロから翻訳した新しい聖書

『聖書 聖書協会共同訳』

—2018年12月発行—

全国書店にて好評発売中です

www.bible.or.jp

日本聖書協会

Spirit & Technology 医療法人社団 湯川胃腸病院

消化器内科・放射線科・泌尿器内科・緩和ケア内科

ここを広く 思いを広く 知性を広く 力をつくして 全人的に仕える医療と福祉

診療時間 月 火 水 木 金 土

9:00-11:00 ○ ○ ○ ○ ○ ○

13:00-16:00 ○ ○ ○ ○ ○ ○

休診日:土曜の午後・日曜・祝日

〒543-0033 大阪市天王寺区堂ヶ芝2丁目10番2号

TEL:06-6771-4861 FAX:06-6771-4882

人によし、社会によし、未来によし。

ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1

http://www.miyoshi-yushi.co.jp

KINSAN 夢に近づく 夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター

0120-111-019

石巻市新聞

2022年(令和4年)12月21日
サンタにふんした支援機構メンバーがプレゼントを届けた

今年もサンタさん来た！

神戸国際支援機構 障害者施設にケーキ贈る

神戸国際支援機構のメンバーが、神戸市にある障害者施設に、サンタさん扮してケーキを届けた。メンバーは、施設の職員や利用者さんと一緒に、ケーキを分け、お話を聞いた。施設の職員は、メンバーの来訪を歓迎し、利用者さんには、サンタさんからのプレゼントを届けた。メンバーは、施設の職員や利用者さんとの交流を大切にしたいと考えている。今後も、施設への支援活動に取り組んでいく。

『石巻日日新聞』（2022年12月21日付）

第137次東北ボランティア

2022年12月19日

熊本支部長 大島健二郎

北陸経由は雪のため、寸止め。神戸から5人は極寒の東北ボランティアに向かう。12年で培われた「縁」がある。あの東日本大震災の大津波、大地震、天変地異がなければ、知り合えなかった交友、友情、深いよすがが培われてきた。独居の高齢者の方々との結び付き、親戚でもなければ血のつながりはないけれど、結び付きの綱目は寒さを越えて、笑顔でつながっている。石巻市の人情に溶かされる。夜、しんと冷える。窓をノックすると、開けてくださる。ケーキは大きいので、分け合うため、寒い外に出来てきて相談される。昔ながらの助け合いの精神である。

在日朝鮮人だつて選挙で自分たちの住む地で〇〇さんを選ぶのが当たり前になってほしい。学校も親が使っていることばを学べる環境も選べるようにしてあげたい。せめてクリスマスの時だけでも、みんなとケーキをいっしょに味わえる日があつてもいい。

障がい者たちも一年に一度、おいしいケーキをほおぼって食べる。宮城県石巻市の福祉施設（宍戸義光理事長）のひたかみ園に今年もケーキを届ける。玉の肌石巻の三木晴雄会長の寛大な親心に手を合わせる。クリスマスケーキ70ロールは、神戸国際支援機構の石巻市支所（阿部とよ子）に20日、午前7時半に山崎製パンの森川大輔さんが届けてくださった。



(中央 市長、左端 大島健二郎) 齋藤正美石巻市長から市長室に招かれる

社説新聞

令和4年1月1日

こども高齢者世帯に
ケーキと靴下のプレゼント

神戸国際支援機構



神戸国際支援機構のメンバーが、神戸市にある障害者施設に、サンタさん扮してケーキを届けた。メンバーは、施設の職員や利用者さんと一緒に、ケーキを分け、お話を聞いた。施設の職員は、メンバーの来訪を歓迎し、利用者さんには、サンタさんからのプレゼントを届けた。メンバーは、施設の職員や利用者さんとの交流を大切にしたいと考えている。今後も、施設への支援活動に取り組んでいく。

『杜鹿新聞』（2023年1月1日付）

『真平家物語』五家荘の先祖（第六回）

熊本県球磨郡相良村教育長 緒方 俊一郎

（第四回の続き）

話を元に反すこととする。

倉岡（蔵岡）で緒方清国一行を襲った山賊に立ち向かった平家の落人たちは歴戦の勇士たちであったので、たちまち十名ほどを切り伏せ十五名を生け捕りにし、頸を刎ねようとした。その時、隠れていた棟梁と思しき男が出てきて手下の命乞いをした。「私は山賊の頭で数馬と申します。部下たちが大変な無礼をして申し訳ありません。」と地にひれ伏して詫言、丁寧にも度々部下の命乞いをした。はじめは源氏の回し者ではないかと警戒していた清経であったが、数馬の手下を思う心と免じて清経（清国）が生け捕りにした山賊達を引き渡した。数馬はたいそう喜んで、一行がこの山中を通りかかったわけを聞くので、「一命惜しくて八嶋より切り抜け落人となりたり」と言う、平家一門の武将である事を知り、お礼として「隠れ住むに良いところがあります」と地図を取り出して白鳥山の麓へ案内した。そこは深い谷で切り立った険しい岩山に囲まれたところで、ここならば源氏の追手も容易には来る事ができないであろうと清国は白鳥山の麓に居住する事とした。

山本文蔵著「秘境五家荘の伝説」には次の如く記述がある。

「白鳥山は山深く又谷深く真に屏風を立てたる如く、中々容易に往来する者一人もなく、且縦横はおおよそ拾二里、廻り四拾里の山、五箇国に境ふ、西は釈迦院岳とて肥後領で、東は日向国高千穂、南は同国那須領に境ふ。北はぬけめ丸、是も肥後領なり。続は肥後、日向、豊後、大隅薩摩、此の五箇国の境にて何処の方角にも道の十五里あり、人里全くないので案内ししょう。」という。「その場所は何者の住処であつたのか、又住家等はあるのか」との問いに、「私は元来浪人していたが、山賊になり九州九箇国の山に里に海辺まで歩いてきたが、このような場所は、六年前より今日まで七箇年間、手下のもの四五拾人と共に居住しております。人通りなければ（山賊稼業は）無力に等しく、豊後の国赤松山に参るところです」と答えた。

清国一同は数馬と共に黒雲に上り四方を見渡せば、五つのくぼ地があり、数馬の云った通りであるので、天神の誓いを立てて、弓を射てその落ちたところに自分の家を建てようとして矢を射た。第一の矢が南嶽の窪地に落ち、ここには中将清経、平内左衛門、西嶽には上総五良兵衛忠光、同三良左衛門景盛、北嶽には越中次郎兵衛盛嗣、江見次郎盛方と立ち別れてそれぞれの処に家を建てた。それぞれが山野を開墾し、作物を仕付けることにし、越中次郎兵衛盛嗣、上総五良兵衛忠光の二人に種子を求めさせるために豊後国、緒方実国（緒方三郎惟義）のところに使いにやつたがそのまま帰らなかった。そこで数馬とその手下を派遣し粟種を求めさせ、種蒔きしたのは寿永十年（建久二年）五月であった。このような経過で清国一行は白鳥山の麓に住み着いた。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

Humanity First

「ヒューマンティファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会弁護士法人
芦屋西宮市民法律事務所

津久井 進

日弁連災害復興支援委員会委員長
兵庫県弁護士会会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区緑3丁目8番12号

事務局便り

事務局長 本田寿久

暖房支縁

戦時下、ウクライナは24時間の内、1時間しか通電ができない。停電のため、零下2度以下の中、ベッドで布団にくるまり、日常生活に事欠いている。1月19日の理事会でも緊急支縁に佐々木美和（「カヨ子基金」）代表の要請について話し合った。

海外に孤児の家を建てるボランティア「カヨ子基金」に仕えています。3回、訪問したウクライナは、老いも若きも苦しみながら、戦勝を渴望する空気でした。

2022年6月、イルピン出身の男性は「カヨ子基金」の私たちを、ブチャなど殺戮のあった地に案内してくださいました。年末、徴兵へと、連絡を受けました。2日間だけクリスマス休暇を取り、これから戦地へ戻るそうです。もう2度と会えるか、わからないとのこと。不在のあいだ、家族を再訪してほしいという連絡でした。

彼は「殺したくない」とつぶやきました。しかし、即座に「ウクライナに栄光あれ」と言い換えました。戦時下では、停戦・終

戦は子どもも口にできません。いつロシアから不意打ち、夜襲攻撃があるかだれもわかりません。

戦禍の国では、停戦交渉は——〈言葉〉による希望は死語になっています。

現在、暖房支縁のため、ポータブルの発電機が求められています。「カヨ子基金」は停電、極寒、医療機関での電力確保に窮しているウクライナへ直接、届けます。発電機を受け付けています。

極東の日本で、「憲法9条」という価値を守り、世界に波及することこそが最前線の兵士を救うと祈ります。

「カヨ子基金」（神戸国際支縁機構海外部）代表 佐々木美和

(一社) 神戸国際支縁機構

ボランティアや移住者募集中

農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。

被災地への支縁物資もお願いします。

年会費をお願いします。(月に200円)

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

海外の孤児のために支縁をお願いします。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

三菱UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

加入者名 神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には書ける方は『国名』を書き添えてください。

本田哲郎セミナー

毎月第3金曜日

午前10時～

神戸学生青年センター

本館1階

岩村義雄セミナー

毎月最終月曜日

午後6時半～

ミント神戸17階

編集後記

私は淡路島の漁村で生まれ育った。高校時代の恩師・岩村義雄先生のお誘いで、第138次東北ボランティアに初参加。道中、台風被害のあった千葉県館山市を初めて訪れた。布良も漁師町である。65歳で地域に移り住み、漁師の修行をされた沖浦宏隆さんに出会った。現在、沖浦さんは漁師として独立。台風被害も乗り越え、更には地域に新しいブランドとなる海産物事業を起こそうとまでがんばっておられる。年齢から察するに数々の苦労とそれ乗り越えて来られた行動力と不屈の精神には感銘を受けざるを得なかった。

長年、山と海で遊んでいるので、Protect Our Winterを略したPOWの活動に感銘を受け、淡路島の浜で海岸清掃などの活動を行い気候変動問題を注視している。神戸国際支縁機構の「田・山・湾の復活」は里山、河川、里海の生態にとり組む活動は非常に興味深い。これから運動などで貢献したい。

てらあき
長野晶朗



左端 筆者 2023年1月22日

救援金、維持会費ご協力感谢您。(敬称略)

2022年10月16日～2023年1月14日

岩村義雄、神戸国際キリスト教会、佐々木美和、大河戸章代、東灘バプテスト教会、大槻紀夫、小谷福哲(千葉県布良)、「小さくされた人々」講座(3)、嶋田博信&礼子(千葉県布良)(3)、神戸新聞文化センター、愛沢伸雄(千葉県館山市)、富ひろみ、山本裕子、西本洋子、沖浦宏隆(千葉県布良)(3)、大島修&大島敬子、西上千栄子(3)、阿部和夫&斉子(宮城県石巻市)(2)、村田優美子(2)、尾関マユミ、なつめ保育園(熊本県相良)、緒方眞喜代、西堀元、原浩司、岩本久吉&眞子(福岡県松末)(3)、野田健二(4)、横田早紀江、木下八重子、島田信一、兵頭晴喜、金恒勝、島飼トモ子、小久保玲子、上野登志子、樋口麻美(2)、宗福寺(兵庫県丹波市市島)、西村、「福音と世界」(新教出版社)、穴戸義光(宮城県石巻市)、宮本博美(2)、有田貞一&美榮子(2)、新井克英(千葉県館山)、三宅幸子、樋口進、さいようこ、祐照寺(古川真照住職)、泉とも子、藤田祥子、神部隆三(2)、久保田弘人(熊本県人吉市釜田醸造所)、徳留由美、竹内喜子、植松智明、宝塚栄光教会(3)、岩間洋&千恵子、永野由美子、内貴千代子、鄭恵姫、元ひつじ、廣森勝久&孝子、中村清雅、石川久子、塩川成子(千葉県館山)、土手ゆき子、土手朋、藤原りつ子、藤丸秀浄(法専寺住職)、阿部艶子、河内常男、長通沙耶、石巻地区森林組合、福寿恵美、萩原文子、大島健二郎(2)、石井久雄、泉晴代、千葉幸一(宮城県石巻市)(2)、白方誠彌(2)、松岡齊(2)、明石バプテストキリスト教会、中山圭子、東原良学(3)、主イエス恵愛教会、高橋務、大谷洋子、河村ひとみ、青木、特定非営利活動法人「AIC」(ローマ・カトリック教会)、太田妙子、湊川伝道館、岩崎勝行、林かれん、渡辺美奈、池田久美子、釧路キリスト福音館、弓矢健児、八尾和樹、松本なみほ、小野寺脩(宮城県石巻市修空館道場館長)、小笠原良夫、朴淳用(神戸学生青年センター)、大野祐弥、久原満里子、垂水朝博会、相浦惠子、山下妙子、坂上順子、KISO牧場、愛編クラブ(中井和代、渋谷智恵美)、濱名浩子、森田一生、高祐二、安美雨、的野慶子、渡辺徹、柳澤豊、大鶴勝、今村佳代子(佐賀県大町町)、藤野知香、谷本幸枝、酒井康、成毛毅(宮城県山元町)、坂牧弓絃、正野弘子、小島千鶴、プイ・ティ・オアン(神戸ベトナム人会会長)、ホームチャペルキリストの花嫁、沖栗穂子、櫻井由里子、神戸聖福教会、李敬淑、合同会社 Bless 泉 眞姫、山崎友葵、伊藤睦人(福岡県大町町)、シェラトン都ホテル大阪朝博会、神縄バプテスト連盟 ルア教会、池永タケコ、苅部眞砂子、梅木博光(金光教多良木教会)、保田茂、新免 服部良一、木村ふみ子(石巻市)、三宅三三子、辻本久夫(2)、廣瀬素子、イエス・キリスト聖伝伝道教会、山本 稔、糸島聖書集会、木村公一、村上安世、川井浩三、川井拓、在日大韓基督教会神戸教会、豊島睦子、福原良三、日本キリスト教団芦屋三条教会、秋田喜代子、山田通裕、日本自由メソヂスト葛城キリスト教会、石井泰代、匿名 567,600円

フードバンク関西、「安房文化遺産フォーラム」から菓子、神戸市社会福祉協議会、平塚宏行&淳子(宮城県渡波)から海苔、黒川菊栄(千葉県布良)から果物、丹野恵子(宮城県石巻市)から海苔など、東 静香からさつま芋、川上末雄からたまごなど、村上安世から支縁、上原俊基、山本 勝から野菜、樋口実&喜寿江(福岡県松末)から晩白柚など(2)、岩本眞子(福岡県松末)からセーターなど、島飼酒造(熊本県人吉)からワンケース&アイス、釜田醸造所(熊本県人吉)から茶、山田徳次郎(熊本県相良)から稲こき機、西上千栄子から毛糸類(2)、Jungwoo Ahn からうどん、(株)チュチュアンナから靴下(2)、菊地恵子(宮城県渡波)からオーデコロン・ミント(2)、阿部和子(宮城県渡波)から柿(2)、阿部ファームミヤコ(宮城県渡波)から芋、丹野典彦(宮城県渡波)から海苔(2)、千葉幸一(宮城県石巻市)から布団、佐藤金一郎&晴美(宮城県渡波)からオロナミン、いくらなど、小川千代(千葉県布良)から野菜、小谷福哲(千葉県布良)から飲物、馬部省一&智美から鮮魚、西村一郎(天理教八生兵庫分教会長)から菓子、梶原将継(福岡県朝倉市寒水)から柿、梶原ミドリ(福岡県朝倉市松末)から野菜(2)、中村優子(佐賀県武雄市)から珈琲、山内満千子(熊本県相良)から菓子など、藤野知香からマスク、粕谷智美(千葉県館山市)から飲料水、丹野恵子(宮城県石巻市)から海苔、本田知章(宮城県石巻市)から「からのり」、三木晴雄(玉の肌石鹸株式会社)からクリスマスケーキ、木村勝&木村ふみ子(石巻市)から民芸具、河村ひとみから支縁物資、藤丸秀浄(法専寺住職)からもち米、栗原永子から珈琲、五百井正浩からコメ、上村由紀穂&恵子(熊本県人吉)から晩白柚一箱、苅部眞砂子からカイロ。

宮城県石巻市渡波は、相撲のさかんな地域である。勝利主義ではなく、相撲道を通じて、健全な青少年教育に寄与している。神戸国際支縁機構も例年、後援に加わっている(画像は2022年の優勝力士)。

